

# 言葉との邂逅

自己組織化する宇宙 | 自然・生命・社会の創発的パラダイム |

エリッヒ・ヤンツ ○ 工作舎

## 進化とは、つねに知的であり続ける宇宙が、 本来的に持つ「遊び心」に他ならない。

なぜ、世界は、ここにあるのか。  
なぜ、自分は、ここにいるのか。  
それは、誰もが、心の奥深く  
に抱く問いであろう。

そして、もし、その問いに対  
する答えを、科学に求めるなら  
ば、我々は、一三七億年の旅に  
出なければならぬ。

悠久の過去に遡る旅である。  
では、一三七億年前、そこに  
は何があったのか。

何も無かった。  
そこには「真空」しか無かった。  
それが、現代科学が、我々に  
教える答えである。

科学が「量子真空」と呼ぶもの。  
それが、突如、ゆらぎを生じ、  
急膨張を起こし、「インフレイシ  
ョン宇宙」を生み出した。

そして、その直後に起こったの  
が、よく知られる「ビッグバン」。

その大爆発によって、この宇  
宙は光で満たされた。そして、  
宇宙が冷えていくに従い、最も  
軽い元素、水素が形成された。

その水素が何億年もの歳月を  
かけて集まり、生まれたものが、  
夜空に無数に輝く星々、「恒星」。

そして、この恒星の中では、  
核融合により、様々な重元素が  
生み出され、恒星の寿命の終わ  
りに、超新星の爆発とともに、  
再び宇宙へと飛び散っていった。

そして、その恒星の周りに形  
成されたものが、さらに無数の  
「惑星」。我々が生きるこの地球  
も、太陽という恒星の周りに生  
まれた一つの惑星に他ならない。

しかし、この地球は奇跡の惑  
星。それが、太陽から最適の距  
離にあったため、生命が生まれ  
る稀有の環境が与えられた。

それゆえ、四六億年前に誕生し  
たこの地球は、最初の一〇億年の  
間に、生命を生み出し、それが、  
さらに数十億年の歳月をかけて、  
生命進化の旅路を辿った。

原始的な生命から、魚類や両  
生類へ、爬虫類や鳥類へ、哺乳  
類や霊長類へ、そして、高度な  
精神を持つ人類へ。

我々は、その一三七億年の旅  
路の果てに、いま、ここにいる。  
そして、その壮大な進化の旅路  
を導いたものは、この宇宙の「自  
己組織化」の営みに他ならない。

真空から生まれた宇宙が、物  
質を生み出し、生命を生み出し、  
精神を生み出していった。

それは、この宇宙が、次々と  
複雑化を遂げていくプロセスで  
あり、自己組織化を通じて進化  
していくプロセスでもあった。

しかし、現代科学が教えるそ  
の事実を知るとき、それでも、  
一つの問いが、我々の心に残る。  
なぜ、宇宙は、真空のまままで  
あり続けなかったのか。なぜ、  
宇宙は、この壮大な自己組織化  
の旅に出たのか。この旅は、い  
つたい、どこに向かうのか。そ  
して、この旅において、我々の  
生には、いかなる意味があるの  
か。

ヤンツが、この遺作を通じて、  
我々に残した問い。それが、い  
まも心に鳴り響いている。



田坂広志  
多摩大学教授 ソフィアバンク代表

# BOOK